

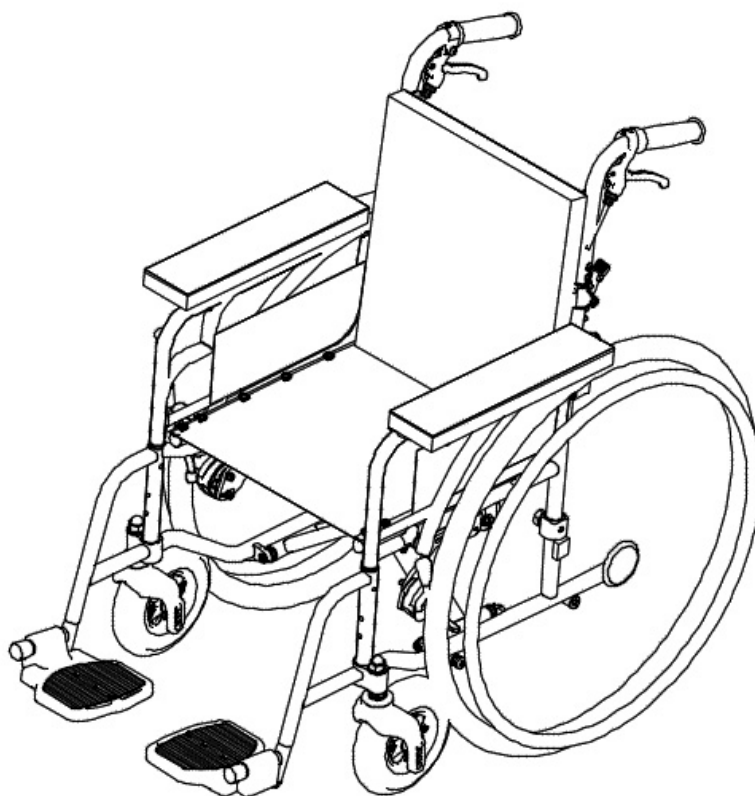
マツナガ

カスタマイズオーダー車椅子

<スタンダードタイプ>

取扱説明書

保存用
保証書付



愛の輪
愛のいす



MATSUNAGA

このたびは、(株)松永製作所製品の車椅子をお買い上げいただき、ありがとうございます。
この取扱説明書には、お客様が安全に正しくご使用していただくために必要な注意事項や正しい使い方が説明してあります。ご使用になる前に、必ずお読みください。
また、保証書が付いておりますので紛失しないように大切に保管してください。安全にご使用していただくために、点検・記録表が付いておりますので、ご自身・お買い求めの販売店(有料)等で定期的に点検をしていただくようお願いします。

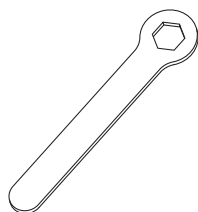
車椅子が、使用者の身体に合わない状態でご使用にならないでください。健康をそこなう恐れがあります。そのような場合は、購入されたお店または、かかりつけの病院にご相談ください。

- お買い上げの製品は、改良などにより、この「取扱説明書」の内容と一部異なる場合があります。
- ご不明な点がございましたら、お買い上げの販売店または、直接弊社までお問い合わせください。

付属品

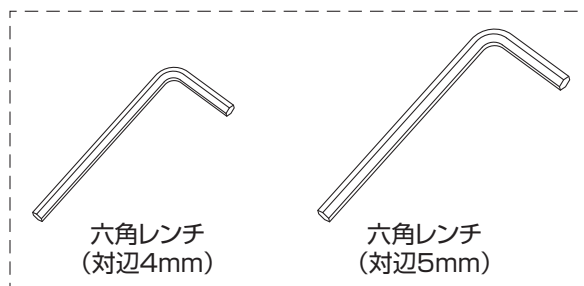


取扱説明書



スパナ

※六角レンチは、オプション選択時のみ付属します。



ご使用前に

出荷時には検査をしておりますが、ご使用前に次のご確認をお願いいたします。

- 運送中の製品破損の可能性があるので、外箱が破損したり、濡れたりしていないか。
- 各部の破損・キズ、フレームのゆがみ、ボルト・ナットや部品の脱落はないか。
- 付属品はすべて揃っているか。
- タイヤの空気圧は適正か。(タイヤを指で押さえ確認してください。)(P.18参照)

もし異常があればご使用にならず、すぐにお買い求めの販売店または、弊社までご連絡ください。

目 次

安全にお使いになるためのご注意	2
各部の名称	4
広げ方・折りたたみ方	5
車椅子の広げ方	5
車椅子の折りたたみ方	6
縮み止めの使用方法	6
安全にお使いになるための使用方法	7
ブレーキの使用方法	7
フット・レッグサポート スイングアウト	8
フット・レッグサポート スイングアウト&エレベーター	8
各部操作・調整の方法	9
フットサポートの調整	9
アームサポートの操作	12
アームサポート跳ね上げ	12
アームサポートの調整	13
背調整マジックベルト張り調整	13
車椅子の使用方法	14
乗り方	14
降り方	14
動かし方	15
介助の仕方	16
外出時の注意	17
ご使用の前に	18
車椅子のお手入れの方法	20
保管場所・保証・アフターサービス	20
車椅子点検シート	21
消耗品・交換部品	22
空気圧管理不要タイヤメンテナンス方法	22
保証書	23

安全にお使いになるためのご注意



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性があることおよび物的損害の発生する可能性が想定されることを示しています。

お守りいただく内容の説明



この表示は、してはいけない「**禁止**」内容です。



この表示は、必ずしていただく「**強制**」内容です。



警告

(禁止)



しては
いけない

■故障、異常のあるときは、直ちに使用を中止してください。
事故、転倒などによるケガの原因となります。

■改造しないでください。

改造によって車椅子の部品の破損、脱落などで安全性が低下して事故、転倒の原因となります。

■バックサポート折りたたみのロックレバーに、かばんなどを引っ掛けしないでください。
ロックが解除され、転倒・転落事故の原因となります。

■タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。
ブレーキのロックが出来なくなり、車椅子が動いて、事故の原因となります。

■フットサポートの上に乗って、乗り込んだり、降りるとき上に立ち上がらないでください。
車椅子がバランスを崩し、転倒・転落事故の原因となります。

■車椅子のシートの上で立ち上がらないでください。
転倒・転落事故の原因となります。

(強制)



必ずして
いただく

■道路の通行は、必ず右側を通行してください。(歩道がある場合は歩道を通行してください。)
道路交通法規を守らないと、交通事故の原因となります。

■坂道の登り下りは、介助者の方に支えていただいて行ってください。
スピードが出たり、バランスが不安定になり、転倒・転落事故の原因となります。

■バックサポート折りたたみのロックピンが、「カチッ」と音が鳴り、
完全に出ていることを確認してください。
急にバックサポートが倒れ、転倒・転落事故の原因となります。

■車椅子に乗る・降りる前や、ベッドへの移乗時には、必ず駐車用ブレーキをロックしてください。
車椅子が動き、転倒・転落事故の原因となります。

■側溝の格子蓋や踏切などでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいて行ってください。
車輪が溝にはまって転倒・転落事故の原因となります。



注意

(禁止)



しては
いけない

■バックサポートに重いものを引っ掛けしないでください。
車椅子が不安定になり、転倒・転落事故の原因となります。

■車椅子を払げる時に、シートパイプの横や下に、手や指を入れないでください。
パイプに手や指を挟んでケガをする原因となります。

■急ブレーキをかけしないでください。
車椅子の使用者が前方へ転倒・転落する恐れがあります。

■アームサポートを持って、車椅子を持ち上げないでください。
部品が外れたり、破損したりしてケガや転倒・転落事故の原因となり大変危険です。

⚠ 注意

(禁止)



しては
いけない

- **タイヤを持って車椅子を操作しないでください。**
ブレーキに手があたり、ケガをする原因となります。
- **スピードが出ている状態で、素手でハンドリムを持って減速しないでください。**
摩擦で、手にケガをする恐れがあります。
- **走行中、身体を乗り出さないでください。**
バランスが不安定になり、転倒・転落事故の原因となります。
- **車輪が回転しているときは、スポークに手や指を差し込まないでください。**
手や指を挟んで、ケガをする原因となります。
- **バックサポートパイプのみで、キャスト（前輪）を上げないでください。**
バックサポートパイプが曲がったり、折れたりして、転倒して事故の原因となります。
- **スピードをつけて、段差を乗り越えようとししないでください。**
使用者が車椅子から転倒・転落して事故の原因となります。
- **使用者が車椅子に乗っている状態でグリップを持って吊り上げないでください。**
部品やパイプが外れたり、破損したりして、転倒・転落事故の原因となります。
- **バックしながら、急停止しないでください。**
転倒・転落事故の原因となります。
- **凹凸のある路面では、前かがみ姿勢で使用しないでください。**
バランスを崩し、前に転倒・転落して事故の原因となります。
- **火気の近くに置かないでください。**
タイヤがパンクしたり、シートが燃え火災の原因となります。

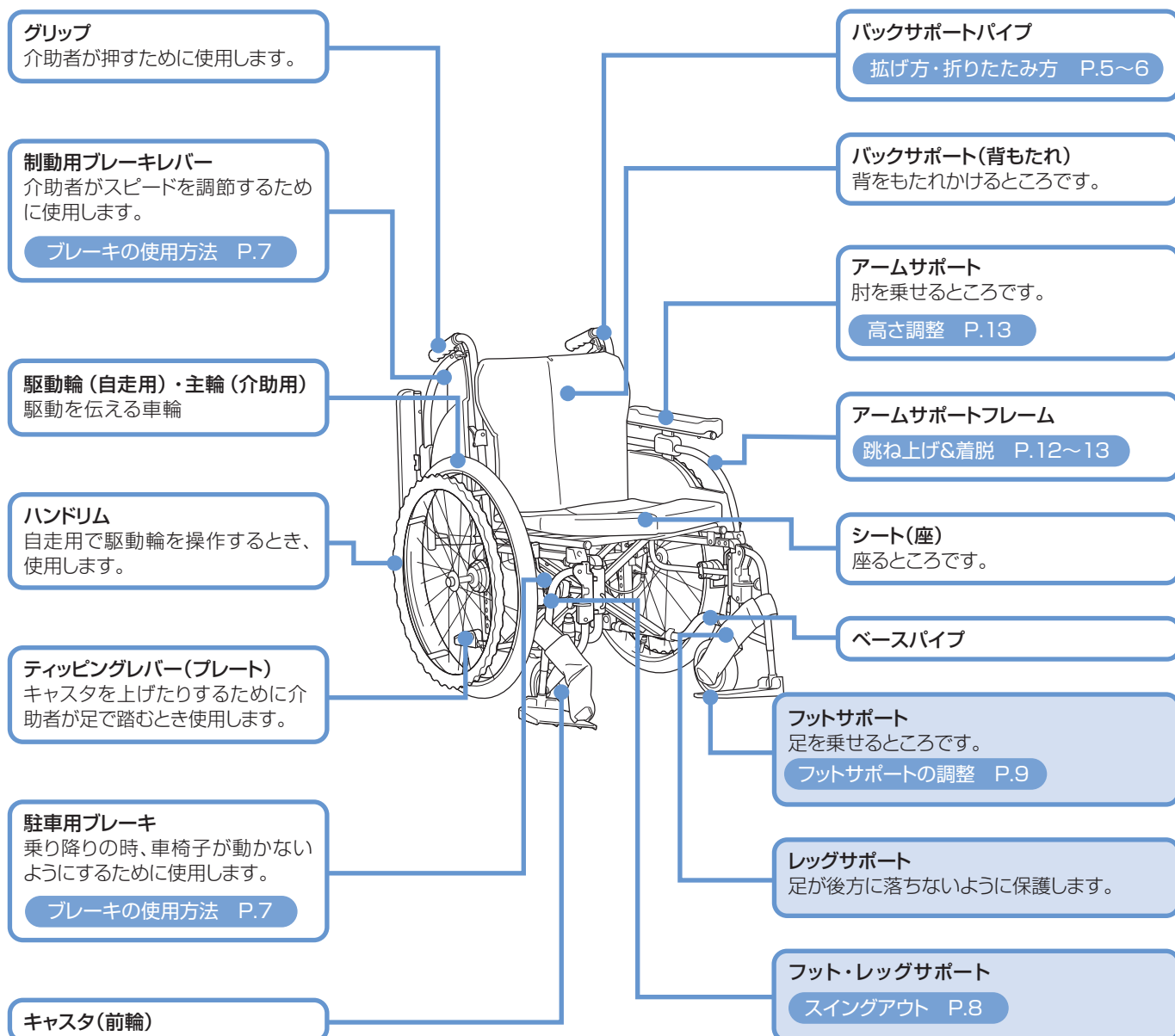
(強制)



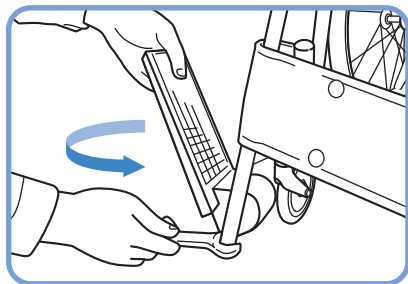
必ずして
いただく

- **フットサポートが固定されているか、確認してから使用してください。**
フットサポートが脱落し事故の原因になります。
- **車椅子を上げた時、シートパイプが受けに収まっているか、確認してから座ってください。**
パイプが変形・破損して、転倒・転落事故および故障の原因になります。
- **背シート・座シートクッションのマジックテープは確実に固定してください。**
固定していないと、シートがずれて、転倒・転落事故の原因となります。
- **マジックテープに付いた、糸くずや汚れを取り除いてください。**
接着力が弱くなり、衝撃を受けた時外れ、転倒・転落事故の原因となります。
- **介助者の方は、制動用ブレーキレバーを両側同時にかけてください。**
バランスを崩し、転倒・転落事故の原因となります。
- **フットサポートの高さは地面より5cm以上でご使用ください。**
路面の凹凸や障害物にフットサポートが引っ掛かり急に車椅子が止まり、転倒・転落事故の原因になります。
- **スイングアウトを戻したときは、ロックが確実にされているか確認してください。**
足を乗せたとき、外れて足をケガする原因となります。
- **アームサポート跳ね上げを戻したときは、ロックレバーのピンが完全にロックされていることを確認してください。**
アームサポートが外れ、転倒・転落事故の原因となります。
- **車椅子の乗り降りは、路面の平坦な場所で行ってください。**
車椅子が動いてバランスを崩し、転倒・転落事故の原因となります。
- **坂道を下るとき介助者の方は、下り坂の下側に立ち、後方を確認しながらゆっくり走行してください。**
前向きで下ると、使用者がずり落ちたり、前のめりとなり、転倒・転落事故の原因となります。
- **側溝の格子蓋、踏切のレール溝にキャスト（前輪）が落ち込まないように注意してください。**
車椅子が急に止まり使用者の身体が前方に傾き、転落・転倒事故の原因となります。
- **安全ベルト装着機種は、必ず安全ベルトを締めてください。**
衝撃などで転落し事故の原因となります。

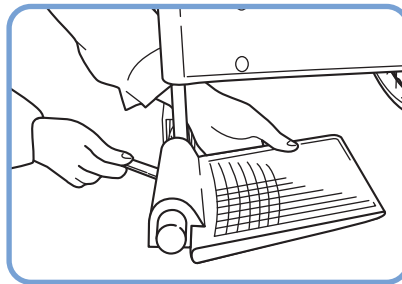
各部の名称



●お買い上げ時(梱包時)、フットサポートが収納されている場合には、ご使用前に前方へ回転させてください。



付属品のスパナで、先端ボルトを少し(フットサポートが動くまで)緩めてください。



フットサポートを回転し、高さ調整(P.9参照)を行い先端ボルトを締めてください。

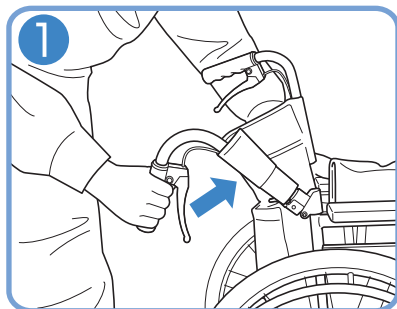
拡げ方・折りたたみ方

車椅子の拡げ方

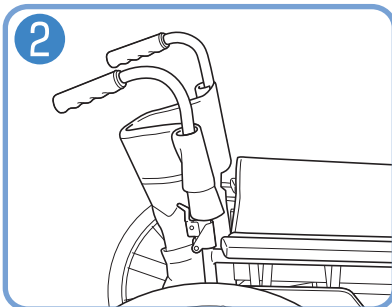
バックサポート固定の場合は、手順③から行ってください。

*バックサポート折りたたみを起こす際は、必ず車椅子を折りたたんだ状態で行ってください。
(拡げた状態で行くと、背シートにバックサポートパイプが引っ張られ、ロック出来なくなります。)

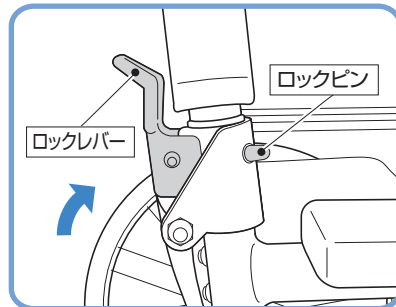
① グリップを持ち、矢印方向に、持ち上げる。



② バックサポートを両側起こす。



レバーを矢印方向に起こす。



警告

●バックサポート折りたたみのロックピンが、「カチッ」と音がして、完全に出ていることを確認してください。(急にバックサポートが倒れ、転倒・転落事故の原因となります。)

していただく

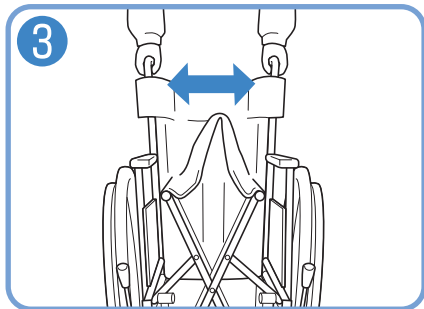


注意

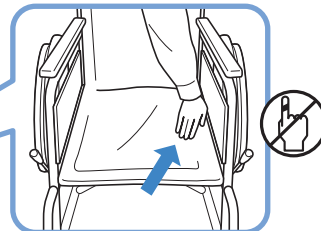
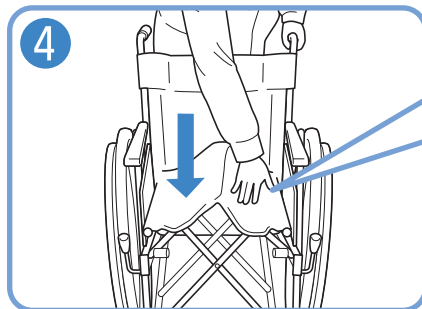
●バックサポートに重いものを引っ掛けないでください。
(車椅子が不安定になり、転倒事故の原因となります。)

してはいけない

③ 車椅子の後方に立ち、左右のグリップを持って両側に拡げます。



④ 片側のグリップを手で持ち、シートを手で下に押し下げると、車椅子が拡がります。



※手・指に注意



注意

●車椅子を拡げる時に、座パイプの横や下に、手や指を入れないでください。
(パイプに手や指を挟んでケガをします。)

してはいけない



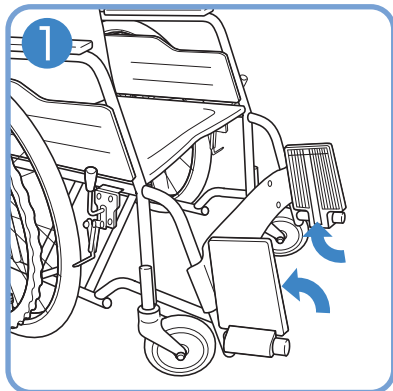
注意

●車椅子を拡げた時、座パイプが受けに収まっているか、確認して座ってください。
(パイプが変形・破損し、転落事故および故障の原因になります。)

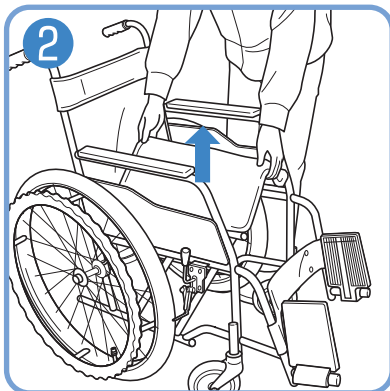
していただく

折りたたみ方

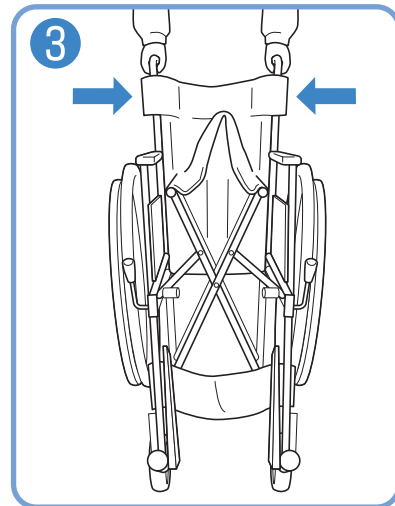
① フットサポートを矢印方向に回転させて跳ね上げる。



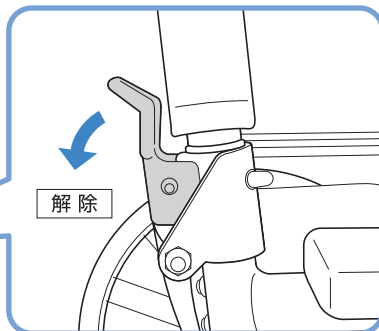
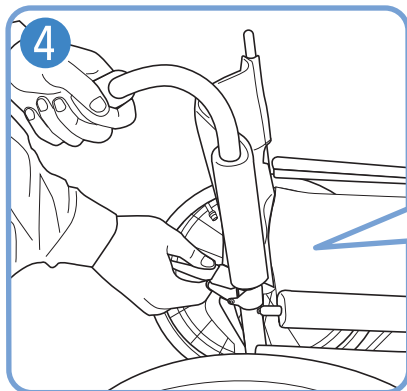
② シートの前方と後方の中央を同時に持ち上げる。



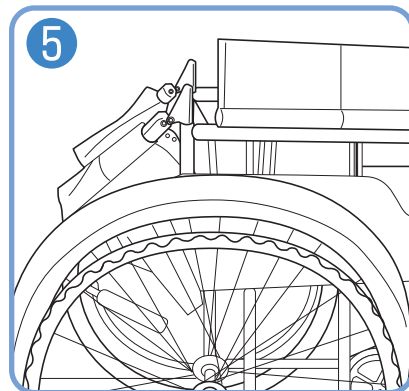
③ 左右のグリップを持ち、内側にたたむ。



④ グリップを片手で持ち、ロックレバーを後方に倒し、バックサポートを倒す。



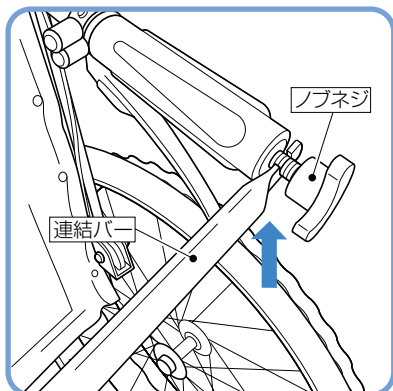
⑤ バックサポートの両側を後方に倒す。



縮み止めの使用方法

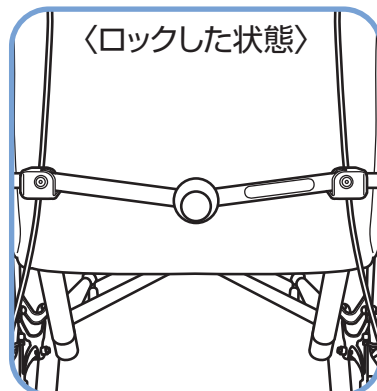
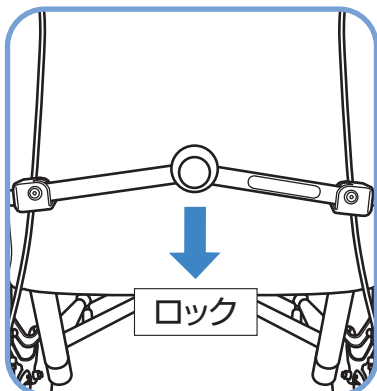
一本物タイプ

使用時は連結バーをノブネジで固定してください。



中折れタイプ

使用時は下側に押し、ロックしてください。



注意

●縮み止めは必ずロックした状態で使用してください。(強度が低下し、車椅子が破損する恐れがあります。)

安全にお使いになるための使用方法

ブレーキの使用方法



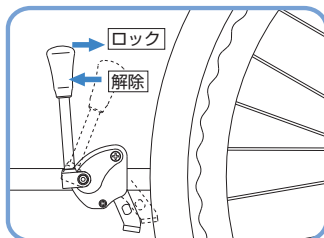
警告

- 車椅子に乗る・降りる前や、ベッドへの移乗時には、必ずブレーキをロックしてください。
(車椅子が動き、転倒事故の原因となります。)

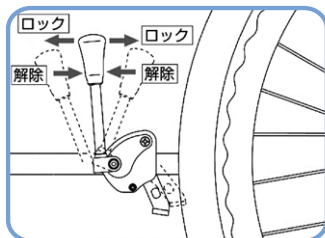
していただく

- ブレーキレバーを[ロック]方向に倒すとロックします。
- [解除]方向に倒すと解除します。

ミニタックル

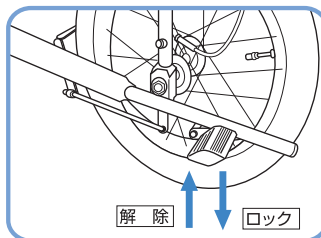


ミニFBタックル



フットブレーキ

ペダルを下に倒すとロックします。
ロックした方向と反対に上げると解除します。

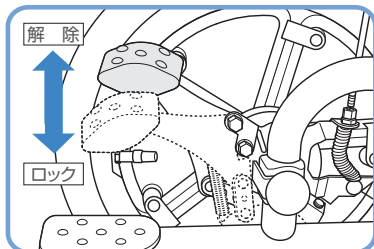


警告

- タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。(P.18 で使用の前に参照)
(ブレーキのロックが出来なくなり、車椅子が動いたりして、事故の原因となります。)

してはいけない

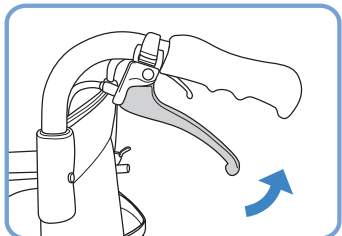
ドラロック(フットブレーキ)



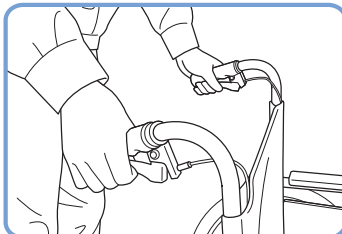
- ブレーキペダルを足で踏み込むとロックします。
- 上げるとロックが解除されます。

制動用ブレーキ

- レバーを握るとブレーキがかかります。
- レバーを離すと解除します。



介助者の方が走行中や下り坂での
速度減速および停止に、ご使用ください。



注意

- 急ブレーキをかけないでください。
(車椅子の使用者が前方へ転倒する
恐れがあります。)

してはいけない



注意

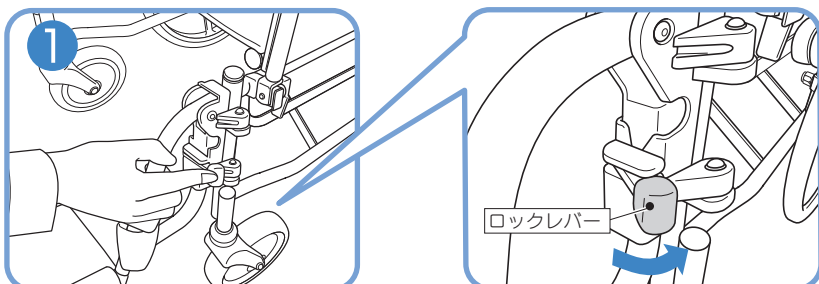
- 介助者の方は、制動用ブレーキレバーを、
両側同時にかけてください。
(バランスを崩し、転倒事故の原因となります。)

していただく

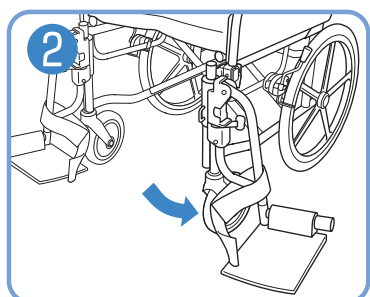
フット・レッグサポート スイングアウト

- フット・レッグサポートをスイングアウト(外開き)したり、取り外すことによりトイレ・ベッドへの移乗がしやすくなります。また、足こぎ操作する時には、取り外すことにより足元が広がります。

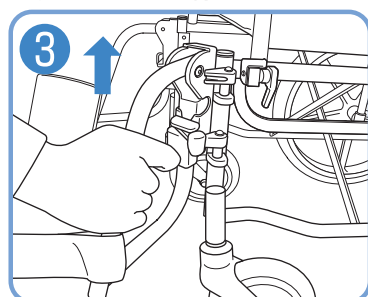
① ロックレバーを押し、ロックを解除します。



② レッグサポートを開くように外側に回転させます。



③ レッグサポートを取り外すときは、外側に回転した状態から上に持ち上げてください。



⚠ 注意

- スイングアウトを戻したときは、ロックが確実にされているか確認してください。
(足を乗せたとき、フット・レッグサポートが外れて足をケガする原因となります。)

していただく

⚠ 注意

- スイングアウトや取り外し・取り付け操作時に、手を挟まないように注意してください。

していただく

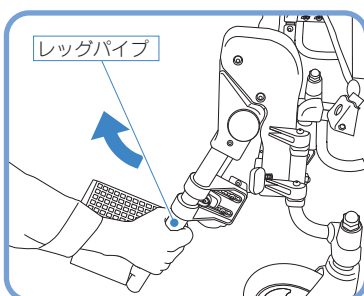
フット・レッグサポート スイングアウト&エレベータィング

- 使用者の身体状況に応じて、フット・レッグサポートをエレベータィング(上下方向への角度調整)することができます。また、スイングアウトも可能です。

エレベータィングの操作方法(足角度の調整方法)

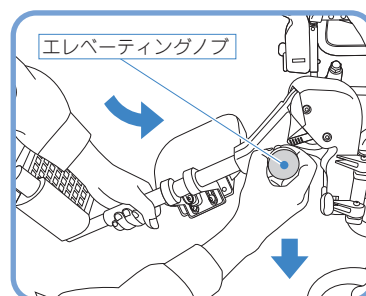
上げる場合

レッグパイプを持ち、そのまま引き上げます。適当な位置になったら少し下げ、ロックされていることを確認して、手を離してください。



下げる場合

レッグパイプを片手で持ち、もう一方の手でエレベータィングノブを手前へ引きます。(荷重で急激に下がらないようご注意ください。) 適当な位置になったらエレベータィングノブを離し、少しレッグパイプを下げ、ロックされていることを確認して、手を離してください。



⚠ 注意

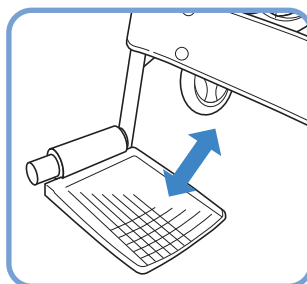
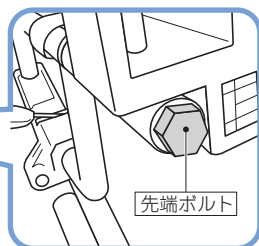
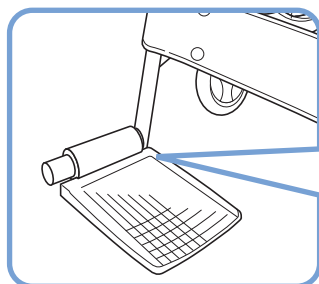
- ユニット本体と、エレベータィング角度変更部の間で手・指等を挟まないようにしてください。必ずレッグパイプを持ち、支えながら操作してください。特に、使用者の足を乗せたままの状態で行うときは注意して操作してください。

各部操作・調整の方法

フットサポートの調整

高さ(長さ)の調整

- 使用者の体格に合わせて、高さを調整することができます。



フットサポートを少し上げ、付属品のスパナで先端ボルトを少し動くところまで緩める。

フットサポート
裏側から見た図

高さを調整し、先端ボルトを締める。

※適正トルク
20Nm

⚠ 注意

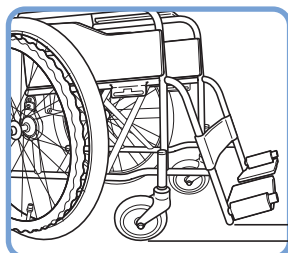
- フットサポートが固定されているか、確認してから使用してください。
(フットサポートが脱落し事故の原因となります。)

していただく

⚠ 注意

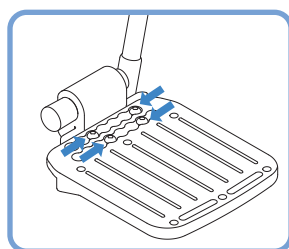
- フットサポートの高さは地面より5cm以上で
ご使用ください。
(路面の凹凸や障害物にフットサポートが引っ掛かり、
急に車椅子が止まり、転倒・転落事故の原因となります。)

していただく



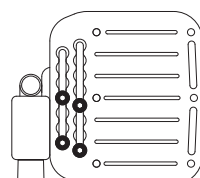
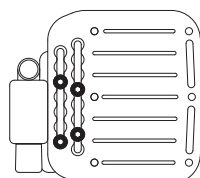
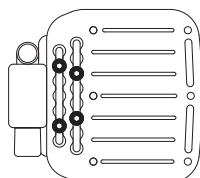
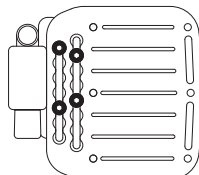
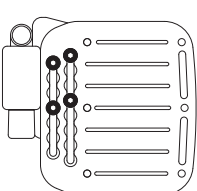
AWフットサポート (前後調整フットサポート)

- フットサポートの位置を前後5段階に調整することができます。



- ・付属の六角レンチ(対辺4mm)で4本のボルトを外してください。
- ・位置が決まりましたら、下図のようにボルト位置をできるだけ離して締めてください。

※適正トルク
7Nm



⚠ 注意

- フットサポートが固定されているか確認してください。
(フットサポートが外れ事故の原因になります。)

していただく

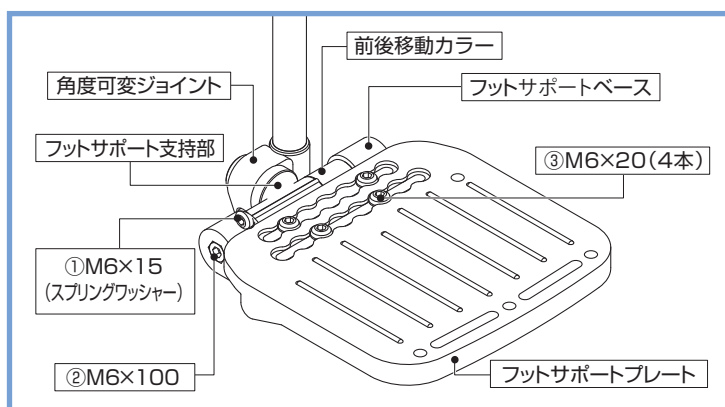
⚠ 注意

- キャストが旋回したときにフットサポートと干渉しないか確認してください。
(走行中急に車椅子が止まり、転倒・転落事故の原因となります。)

していただく

AJタイプフットサポート（前後&角度調整）

各部名称



※適正トルク

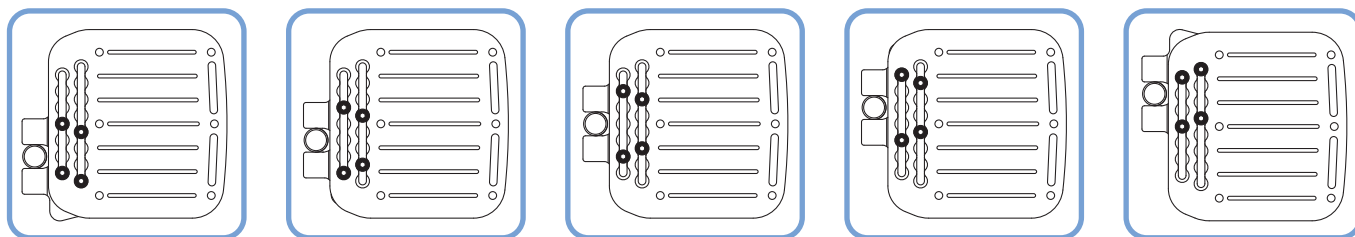
- ① M6×15 … 10Nm
- ② M6×100 … 7Nm
- ③ M6×20 … 7Nm

前後調整方法

基本的な調整方法

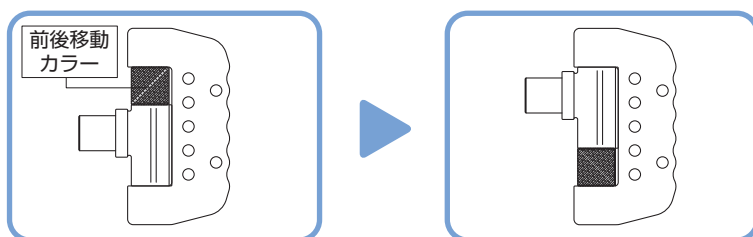
● ボルト位置

③ M6×20 (4本) を取り外します。このとき、フットサポートベース裏側のナット (4個) を無くさないようにしてください。下の図のように、前後5段階に調節ができます。(13mm間隔) 4本のボルトを締めてください。
※ボルト位置は図のようにできるだけ離れた位置を使用します。



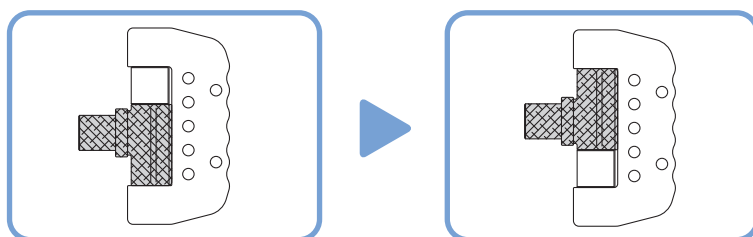
さらに調整する方法(その1)

② M6×100 を取り外します。下の図のように、前後移動カラーを組み替えることで、さらに20mm調節ができます。



さらに調整する方法(その2)

① M6×15 をゆるめます。(取り外す必要はありません) ※このとき、スプリングワッシャーを無くさないようにしてください。左右のフットサポート支持部を取り外し、左右を入れ替えることで13mm調節位置を変えることができます。



注意

● ① ② ③ のボルトは必ず締めてください。フットサポートが外れ、ケガをする恐れがあります。

していただく

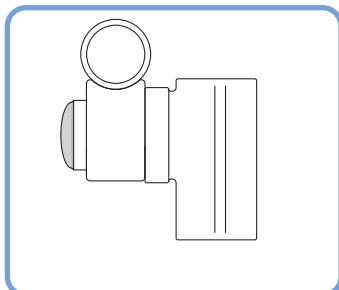
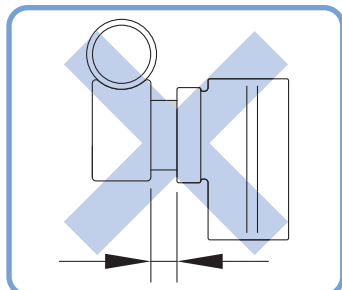
角度前後調整方法

①M6×15をゆるめます。(取り外す必要はありません)

※このときスプリングワッシャーを無くさないようにしてください。

フットサポートプレート全体をしっかりと持ち、最適な位置へ角度を変更してください。

※このときフットサポート支持部と角度可変ジョイントの間にすき間がないようにしてください。



⚠ 注意

- すき間がある状態で使用するとフットサポートが外れケガをすることがあります。

してはいけない

位置が決まったら、①M6×15を締めてください。
フットサポートが動かないか確認してください。

⚠ 注意

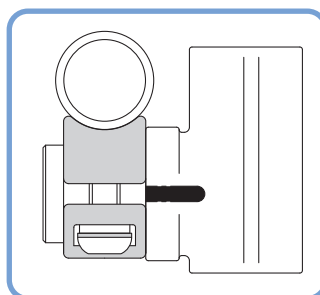
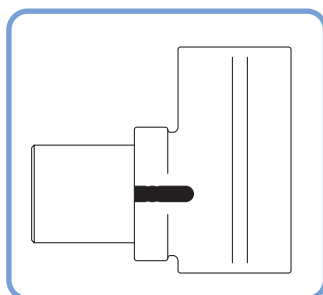
- ①のボルトは必ず締めてください。
フットサポートが急に角度が変わったり、外れたりして、ケガをする恐れがあります。

していただく

👉 1Point

フットプレートを 初期設定に戻したい場合

フットプレート支持部の下側に
突起が設けてあります。
この突起を角度可変ジョイント
のすき間に合わせてください。

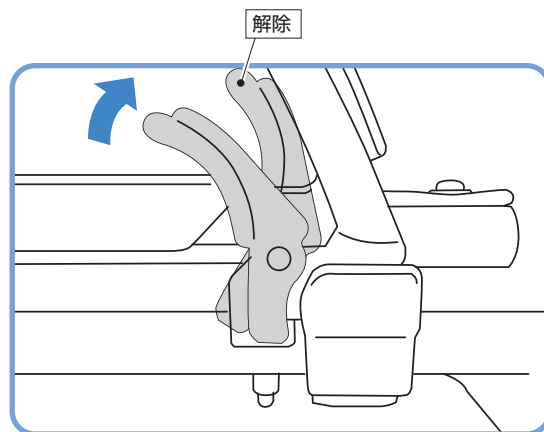
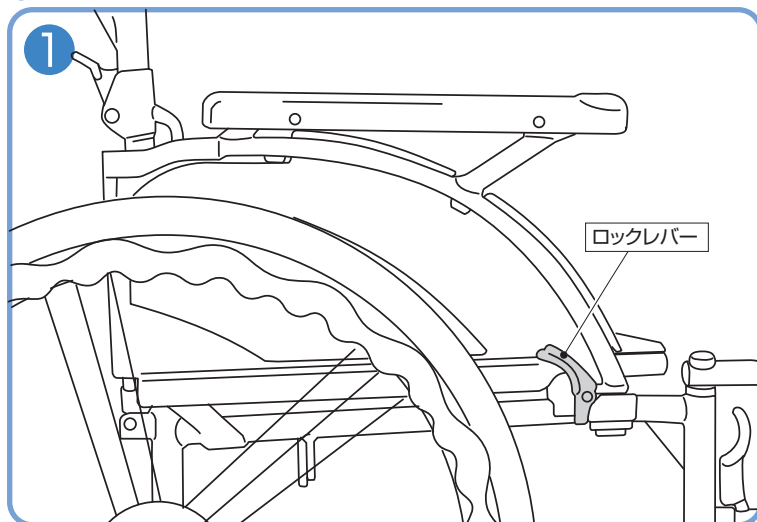


アームサポートの操作

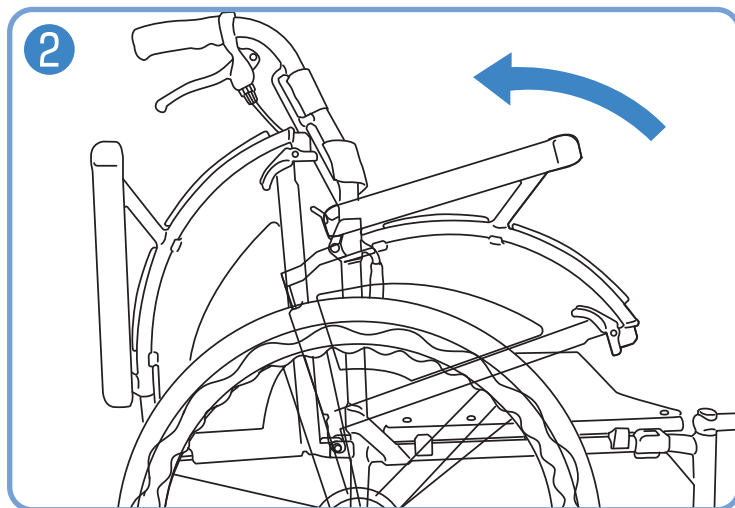
アームサポートの跳ね上げ

●両側のアームサポートが後方に跳ね上がりますので、移乗がしやすくなります。

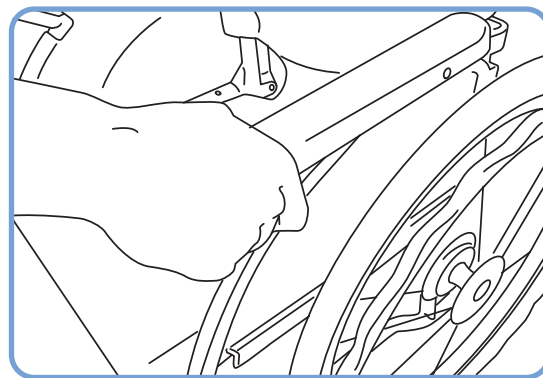
① ロックレバーを矢印の方向に操作する。



② ロックレバーを解除した状態のまま、アームサポートを後方に跳ね上げる。



もとにもどしたときは、アームサポートを上下に動かし、ロックが確実に掛かっているか確認してください。



⚠ 注意

●アームサポートを持って、車椅子を持ち上げないでください。
(ケガ、破損の事故原因となります。)

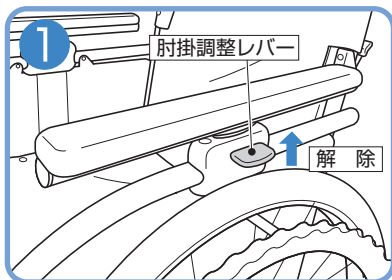
⚠ 注意

●アームサポートを跳ね上げた状態で、アームサポートに力を加えないでください。
(破損の原因となります。)

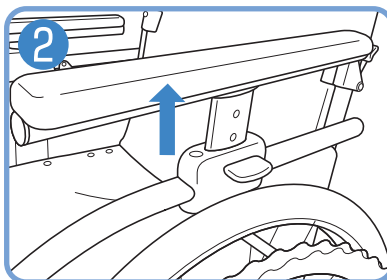
アームサポートの調整

●肘掛(パッド)の高さを3段階(280~320mm)に調整することができます。

① 肘掛調整レバーを解除位置にする。



② 肘掛の高さを適当な位置にする。

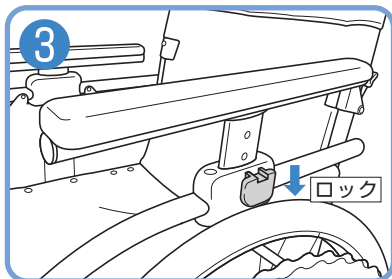


⚠ 注意

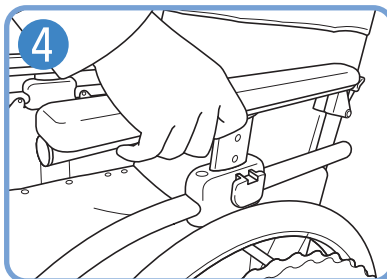
●ロックが確実にされていることを確認してください。

していただく

③ 肘掛調整レバーをロック位置にする。



④ 肘掛を上下に動かしロックされていることを確認してください。



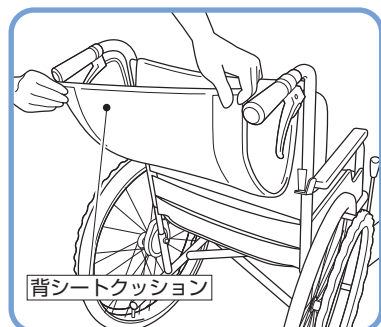
⚠ 注意

●肘掛(パイプ)の下に手などを入れないようにしてください。

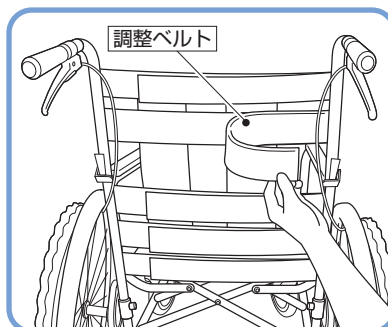
していただく

背調整マジックベルト張り調整

① 背シートクッションを外す。



② 背張り調整ベルトの各マジックテープを外し、ベルト調整をする。調整後は、背シートクッションを固定する。



⚠ 注意

●調整マジックベルトのマジックテープは確実に固定してください。
(固定が不完全な場合、シートが外れて転倒事故の原因となります。)

していただく

⚠ 注意

●マジックテープに付いた、糸くずや汚れを取り除いてください。
(接着力が弱くなり、衝撃を受けた時、ベルトが外れて転倒事故の原因となります。)

していただく

車椅子の使用方法

乗り方・降り方

下記乗り方・降り方は、一例です。



警告

- 車椅子に乗る・降りる前や、ベッドへの移乗時には、必ず駐車用ブレーキをロックしてください。（車椅子が動き、転倒・転落事故等の原因となります。）

していただく



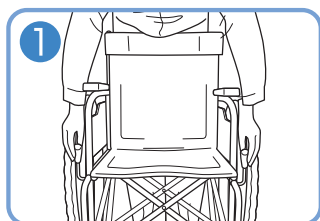
注意

- 車椅子の乗り降りは、路面の平坦な場所で行ってください。（車椅子が動いてバランスを崩し、転倒・転落事故等の原因となります。）

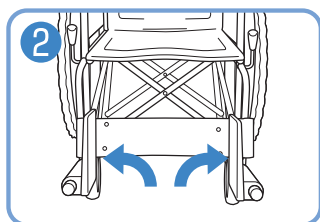
していただく

乗る時

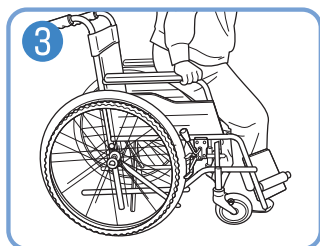
- ① 駐車用ブレーキを両側ロックします。



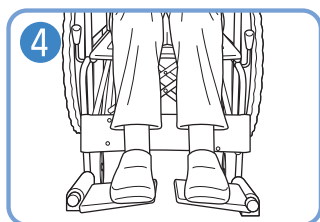
- ② フットサポートを両側跳ね上げます。



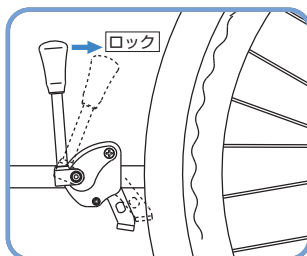
- ③ 両手で、アームサポートを持ちゆっくり座り込みます。



- ④ フットサポートを下ろし、足を乗せます。

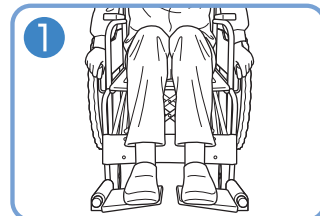


駐車用ブレーキ

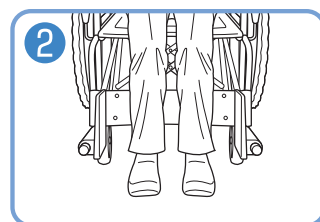


降りる時

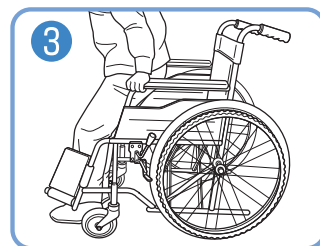
- ① 駐車用ブレーキを両側ロックします。



- ② フットサポートを跳ね上げ、足を下ろします。



- ③ 両手で、アームサポートを持ちゆっくり立ち上がります。



警告

- フットサポートの上に乗って乗り込んだり、降りるとき上に立ち上がらないでください。（車椅子がバランスを崩し、転倒・転落事故等の原因となります。）

してはいけない



警告

- 乗り降りの際にはブレーキレバーに体重をかけないでください。（レバーが変形・破損し、転倒する恐れがあります。）



警告

- 乗り降りの際に、跳ね上げたフットサポートに足が当たらないように注意してください。（けがをする恐れがあります。）



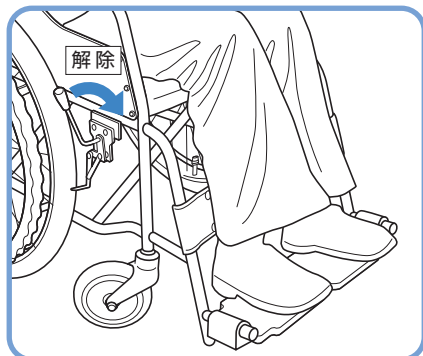
注意

- フットサポートを足で跳ね上げる場合は、素足では行わないでください。（けがをする恐れがあります。）

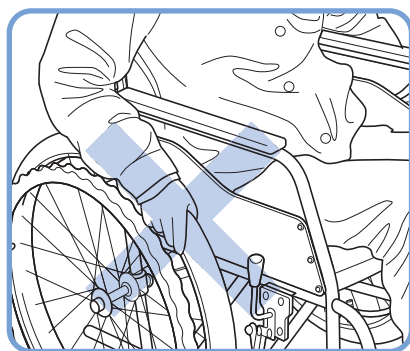
動かし方

(自走用車椅子の場合)

駐車用ブレーキを解除する。



ハンドリムを握り、車輪を回転させ移動させる。



注意

- タイヤを持って車椅子を操作しないでください。
(ブレーキに手があたり、ケガをする原因となります。)

してはいけない



注意

- スピードが出ている状態で、素手でハンドリムを持って減速しないでください。
(摩擦で、手にケガをする恐れがあります。)

してはいけない



注意

- 走行中、身体を乗り出さないでください。
(バランスが不安定になり、転倒・転落事故の原因となります。)

してはいけない



注意

- 車輪が回転しているときは、スポークに手や指を差し込まないでください。
(手や指を挟んで、ケガをする原因となります。)

してはいけない

※このような場合にはオプションのスポークカバーのご使用をおすすめします。

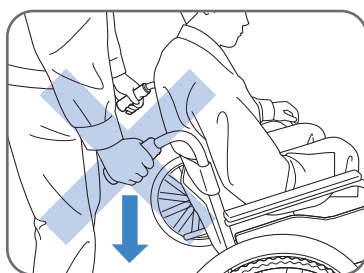
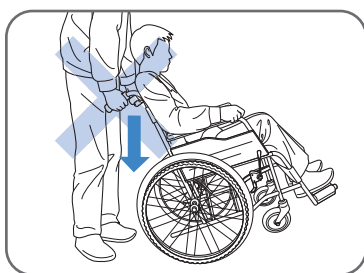
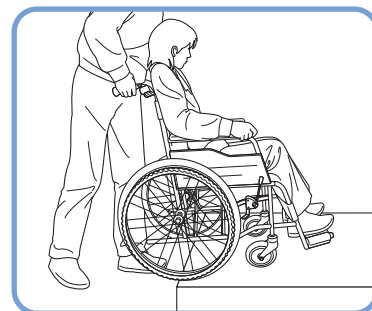
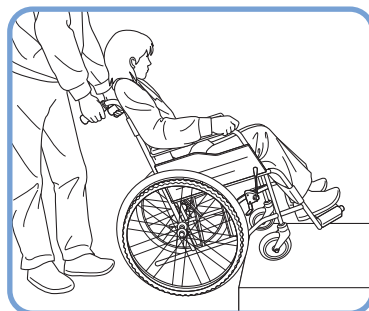
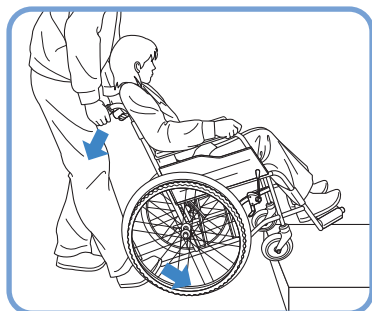
次のような使用場所や環境では、危険が伴う場合がありますので、必ず安全を確認していただくか、介助者の方が付き添ってください。

- ・坂道の登り下り
- ・踏切の横断
- ・側溝の格子蓋の横断
- ・悪路
- ・電車への乗車、下車
- ・段差乗り越え
- ・路面が片側に傾斜しているところの走行

介助の仕方

介助者援助をお願いしてください。

介助者の方は、段差を乗り越える場合には、ティッピングレバー(プレート)を踏んでキャスト(前輪)を上げ、段差に乗せてから、乗り越えてください。



⚠ 注意

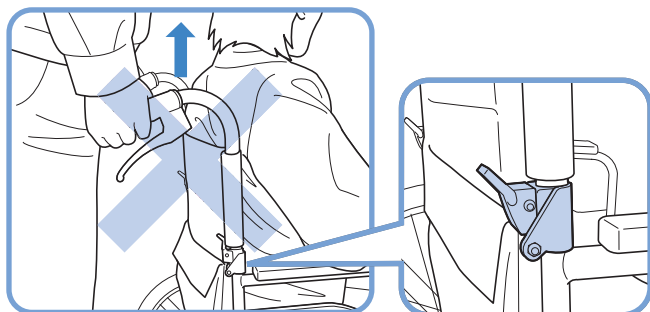
- バックサポートパイプのみで、キャスト(前輪)を上げないでください。
(バックサポートパイプが曲がったり、折れたりして、転倒・転落事故の原因となります。)

してはいけない

⚠ 注意

- スピードをつけて、段差を乗り越えようとししないでください。
(使用者が車椅子から転倒・転落して事故の原因となります。)

してはいけない



⚠ 注意

- バックサポートが折りたたみ式の場合は、使用者が車椅子に乗っている状態でグリップを持って吊り上げないでください。
(部品やパイプが外れたり、破損したりして、転倒・転落事故の原因となります。)

してはいけない

車椅子を持ち上げようとして次のような箇所は、持たないでください。

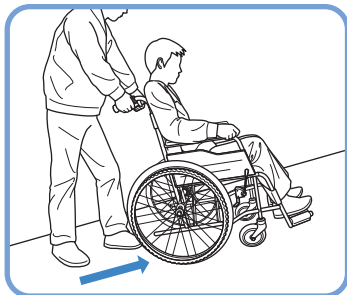
- ・バックサポートが折りたたみ式のバックサポートパイプ部
- ・アームサポートが、跳ね上げ&着脱のアームサポート部
- ・フット・レッグサポートが、スイングアウト式のフット・レッグサポート部

外出時の注意

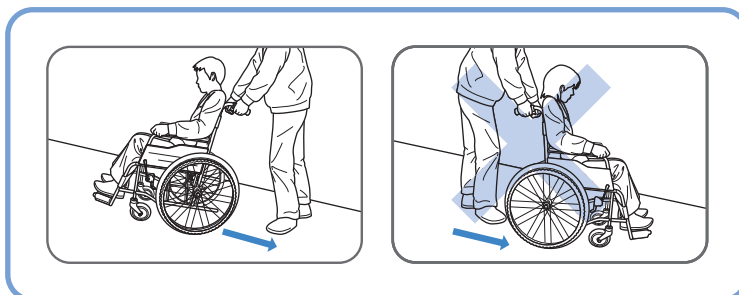
介助者援助をお願いしてください。

坂道の登り下りでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいて行ってください。

登り坂



下り坂

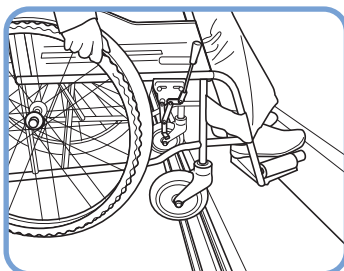
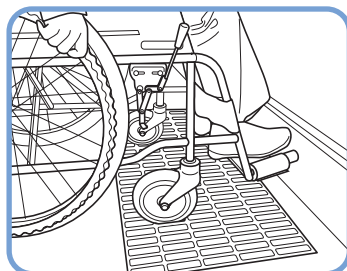


⚠ 注意

- 坂道を下るとき介助者の方は、下り坂の下側に立ち、後方を確認しながらゆっくり走行してください。（前向きで下ると、使用者がずり落ちたり、前のめりとなり、転倒・転落事故の原因となります。）

していただく

介助者援助をお願いしてください。



⚠ 警告

- 側溝の格子蓋や踏切などでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいて行ってください。（車輪が溝にはまって転倒・転落事故、破損の原因となります。）

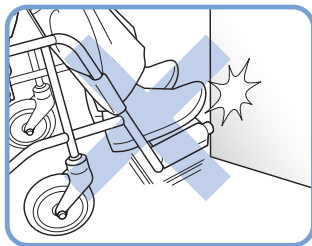
していただく

⚠ 警告

- 側溝の格子蓋、踏切のレール溝にキャスト（前輪）が落ち込まないように注意してください。（車椅子が急に止まり使用者の身体が前方に傾き、転倒・転落事故、破損の原因となります。）

していただく

【介助者の方へ】



⚠ 注意

- 移動中、つま先が障害物に当たらないように、確認して走行してください。

していただく

⚠ 注意

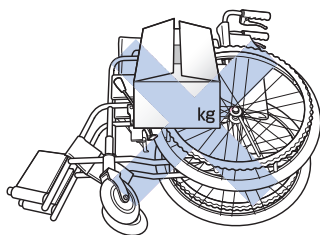
- フットサポートに、足が乗っているか確認して走行してください。

していただく

⚠ 注意

- 車椅子を横向きに倒して、上に物を置かないでください。
(重みで車輪フレームが曲がったりして、故障の原因になります。)

してはいけない



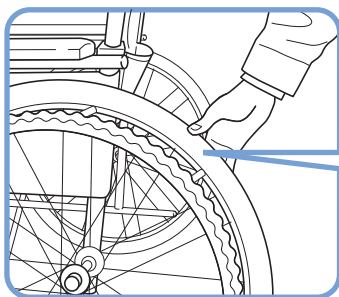
■階段などで、使用者が乗ったままの状態、介助者に吊り上げてもらう場合

ベースパイプ・バックサポートパイプの固定されている箇所を持って、4～5人で支えてもらってください。

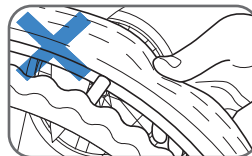
ご使用の前に

■ご使用前に、安全にご使用していただく為、次の確認をお願いします。

- ・タイヤの摩耗・亀裂はないか。
- ・ブレーキに異常はないか。
- ・タイヤの空気圧は適正か。
- ・ブレーキをロックした時、駆動輪・主輪が回転しないか。

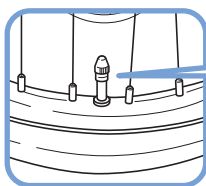


タイヤを親指で押し、容易に凹む場合は、自転車用空気入れで空気を補充してください。



タイヤの空気バルブの
トップナットが緩んで
いないか確認してください。

タイヤの空気がすぐに抜けるときは、
スーパーバルブを交換してください。



- ゴムキャップ
- トップナット
- スーパーバルブ

⚠ 警告

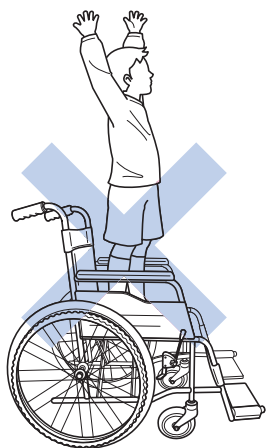
- タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。

(ブレーキのロックが出来なくなり、車椅子が動いたりして、事故の原因となります。また、タイヤのパンクの原因となります。)

してはいけない

適正空気圧(タイヤ側面に記載してあります。)

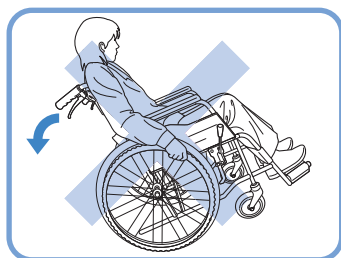
- ・16"×1.75、16"×1.3/8、20"×1.3/8、22"×1.3/8、24"×1.3/8の場合:350kPa
- ・22"×1、24"×1の場合:700kPa



警告

- 車椅子のシートの上で立ち上がらないでください。
(転倒・転落事故の原因となります。)

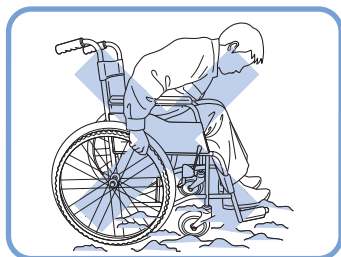
してはいけない



注意

- バックしながら急停止しないでください。
(転倒・転落事故の原因となります。)

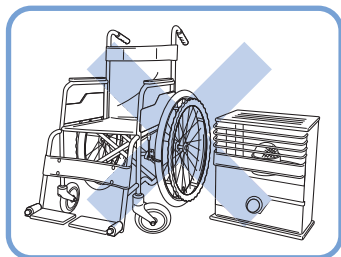
してはいけない



注意

- 凹凸のある路面では、前かがみ姿勢で使わないでください。
(バランスを崩し、前に転倒・転落して事故の原因となります。)

してはいけない



注意

- 火気の近くに置かないでください。
(タイヤがパンクしたり、シートが燃え火災の原因となります。)

してはいけない

車椅子のお手入れの方法

■清掃は、水につけたタオルを強くしぼり、泥やホコリを拭き取った後に乾いた布で仕上げ拭きをしてください。

揮発性剤（シンナー・ベンジン・アルコール類）では、清掃しないでください。

変色したり、劣化の原因となります。

ホースなどで、直接水をかけないでください。車輪およびフレーム内部・ブレーキ部に水滴が残り、錆の原因となります。

■タイヤの空気圧は、最適空気圧：タイヤ側面に記載の空気圧に保ってください。（P.18参照）
空気圧が低いときは、補充してください。

■タイヤには、ひび割れを防ぐ為に老化防止剤が配合されていますので、次のような環境および薬剤はさけてください。タイヤの劣化を促進させ、ひび割れの発生原因となります。

- オゾン(O₃)
- 光線(日光)、熱・伸張等の機械的作用。
- 銅・マンガンのような金属塩、石鹼などの容易に酸化される物質。
- シリコン系ワックス(自動車タイヤ用ツヤ出し剤、潤滑剤(錆落とし含む))。

■車椅子に異常がある場合は、取扱店で、点検・修理をおこなってください。
そのままの状態で使用されますと、使用中に破損し、事故の原因となります。

- タイヤの劣化・ひび割れ・空気漏れ
- 各部固定部品の変形・破損
- ボルト・ナット・ネジの緩み
- フレームのひび割れ・曲がり・がたつき
- 駆動輪・キャスト（前輪）の変形
- 制動用ブレーキ・駐車用ブレーキの効き具合

保管場所

次のようなところでは、保管しないでください。
故障の原因となります。

- 雨に濡れるようなところ
- 直射日光が当たるようなところ
- 湿気の多いところ
- 高温室になるところ
- 炎天下

保証

- 保証期間は、お買上げ後1カ年です。（本体、付属品共）
ただし、次の場合は、保証期間中でも有償修理とさせていただきます。修理に要する運賃等の諸経費を含みます。
 1. 火災、天災による故障・損傷の場合
 2. 取扱説明書に記載の使用方法、ご注意に反するお取扱いによって発生した故障の場合
 3. 無断仕様変更および、改造による故障の場合
 4. タイヤの摩耗、パンク、シートのやぶれ、ブレーキ、制動用ブレーキ用ワイヤ、ブレーキゴム等の消耗品、および各部の劣化による故障、損傷の場合
- この保証書は日本国内のみ有効です。
- 保証修理をお受けになる場合は、必ず保証書をご呈示ください。
保証書の提示がない場合には、保証修理をお受け致しかねます。
- 保証書はお買上げ店で発行致します。記入漏れがありますと、保証期間内でも保証修理が受けられません。
- 保証書の再発行は致しません。大切に保管してください。

アフターサービス

万一故障の場合は、お買上げいただきました販売店、または松永製作所へ保証書ご持参の上、修理をお申しつけください。

車椅子 点検シート

安全にご使用していただくために、ご自身・お買い求めの販売店（有料）で定期的に点検をしていただくようにお願いします。

（長期間で使用にならなかった場合は、ご使用前に点検をしてください）

点検の結果、異常があった場合はご使用にならず、調整・部品交換をしてからご使用ください。

点検項目		年 月 日					
		点 検 者					
キャスタ(前輪)	亀裂・キズの有無						
	キャスタの摩耗						
	スムーズな回転						
フォーク	損傷の有無						
	スムーズな旋回						
後輪	タイヤの空気圧						
	タイヤの摩耗						
	スムーズな回転						
	ホイールのキズの有無						
	スポークの緩み（自走のみ）						
フレーム	各部キズの有無						
	ボルト・ナットの緩み						
	スムーズな折たたみ						
ブレーキ	ブレーキの効き						
シート	シートの破れ・損傷						
	シート固定ネジの緩み						
フットサポート	固定ボルトの緩み						
	プレートの破損						
アームサポート	固定ボルトの緩み						
	パッドの破損						
その他							

消耗品・交換部品

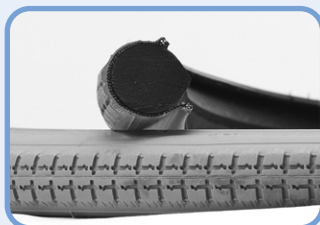
それぞれの部品が交換時期になったときは、お早めに交換してください。

品名	交換時期
駆動軸・主輪	表面にひび割れが発生したとき
キャスト(前輪)	表面にひび割れが発生したとき
シート	ほつれ、破れが発生したとき ひどく汚れたとき マジックテープの接着が弱くなったとき
ワイヤ	ワイヤにほつれ、亀裂、サビが発生したとき スムーズに動作しなくなったとき

空気圧管理不要タイヤメンテナンス方法

空気圧管理不要タイヤ

〈ハイブリッドタイヤ〉



安全にご使用していただくため、次の確認をお願いします。

- ・タイヤ表面の摩耗・亀裂。
- ・スムーズな回転、異音 等。
- ・車輪のホイールの傷の有無。
- ・駐車用ブレーキでロックした際、駆動輪・主輪は回転しないか。
- ・スポークの緩み、損傷 等。

※空気圧管理不要タイヤの交換目安は、お買い上げ後5カ年です。
(使用環境、使用頻度、使用状況による。)

※空気圧管理不要タイヤには、ウレタン素材を使用している物があります。
この素材は、水と反応し分解する(加水分解)性質があり、その結果タイヤのヒビワレ、
表面の剥離など発生する場合があります。メンテナンスの際には、十分に水分を拭き取ったあと
風通しの良い日陰でよく乾燥させてください。(直射日光は避けてください。)

※保管時にも、高温多湿、雨、直射日光に注意してください。

[illegible]

[illegible]

愛の輪
愛のいす



MATSUNAGA

株式会社 松 永 製 作 所

〒503-1272 岐阜県養老郡養老町大場484

TEL0584-35-1180(代) FAX0584-35-1270

URL <https://www.matsunaga-w.co.jp>